

火山噴火予知連絡会 火山活動評価検討会  
第1回口永良部島地域会合 議事概要

1. 開催概要

日時：令和5年9月5日（火）13:00～15:20

主査：中村（福岡地区主査）

出席委員：井口、大倉、鍵山、下司、小林、高木、爲栗、中右、中辻、  
宗包、吉田（剛）、吉田（康）

敬称略

2. 議事概要

少なくとも最近 100 年ほど目立った火山活動のなかった古岳火口において活動が活発化している状況を踏まえ、現在の活動状況について情報交換をおこない、古岳火口からの噴火の可能性も含めた今後の活動経過について議論を行った。概要は以下の通り。

- 古岳火口浅部で地震活動が活発化しており、火口底の噴気活動も活発化している。また火山ガス（二酸化硫黄）の放出量も増加している。
- 地殻変動観測では、古岳火口付近の比較的狭い範囲の隆起を示唆する結果が得られている。一方、地下深部を変動源とするような全島的な地殻変動は認められない。
- 古岳火口浅部の活動活発化を踏まえると、古岳火口で水蒸気噴火が発生する可能性はある。
- 今のところ、山体深部へ新たに多量のマグマが供給されたことを示唆するような地殻変動は認められないものの、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量が増加していることから、活動にはマグマが関与していると考えべき。
- 今後、マグマ供給の増大を強く示唆する変化がみられるなど、活動推移によっては、さらに規模の大きな噴火へ発展する可能性も考えられる。
- 古岳火口だけでなく、新岳火口においても火口直下の地震活動及び熱活動は継続していることから、噴火の可能性は否定できない。